

情報・データサイエンス・AI パッケージ 自己点検・評価報告書 (令和 5 年度実施分)

教育本部全学教育統括部
情報教育・データリテラシー部門

0. 総評

令和 2 年度より開始したリテラシーレベルで情報と数理、データサイエンス、および AI を広くカバーする情報・データサイエンス・AI パッケージについて、令和 3 年度は教員と学生、学生間のコミュニケーションが不十分である等の課題も生じていたが、令和 4 年度は、対面クラス、およびオンライン双方向クラスに参加し、コミュニケーションの機会を増やす等により改善した。また、英語対応も実施した。令和 5 年度は、海外協定校と連携した一部科目の国際化、および夜間主コースにおける必修化の準備を進めた。また、国際協調学習のための教育環境整備、一部講義のコンテンツ化と公開を進めた。

1. 「学内からの視点」における自己点検・評価

夜間主コースについては、旧カリキュラムから本パッケージへの以降準備に時間を要したが、令和 6 年度から必修にするための体制を整えた。
授業改善アンケートでは、本パッケージの科目の多くで、「学生同士や教員と議論したりプレゼンテーションをしたりする機会がありましたか。」が、全学平均を大きく下回り続けている。本パッケージには規模の大きいオンライン授業が多く、学生同士や教員との議論の機会は限られたものになっている。このため、全体的な改善には時間を要するが、必修科目である「情報・データ科学入門」では、これまで実施してきた身の回りでの AI 活用をテーマとしたオンラインでのグループワークに加え、海外協定校と連携したオンライン国際協調学習を導入し、新たな学生同士や教員との議論、プレゼンテーションの機会とする準備を進めた。

2. 「学外からの視点」における自己点検・評価

本パッケージは令和 2 年度開始のため、本教育プログラム修了者は在学中で、修了者の進路、活躍状況は未定である。産業界からの視点を取り入れるため、本校では数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムが作成したモデルカリキュラム（リテラシーレベル）と、情報処理学会が定める一般情報教育の知識体系を基にカリキュラムを構築している。令和 3 年度より、産業界と共同で開発した [SNS シミュレータ \(https://media-literacy.smartnews-smri.com\)](https://media-literacy.smartnews-smri.com) を利用した教育実践を行っており、令和 4 年度は、最新の生成 AI をグループワークで利用するための HiGPT を共同開発した。いずれも日本語、英語に対応しており、本パッケージの中の大規模授業、および国際協調学習で、産業界からの視点も取り入れた実践のための準備を整えた。また、必修科目「情報・データ科学入門」の一部、選択必修科目「データサイエンス基礎」のコンテンツ化を行い、その一部を公開しており、今後、学外からの視点を取り入れた授業改善に役立てる計画である。

3. その他（特記事項）

本授業では、データサイエンスと AI に関する導入教育、シミュレータを利用した体験型教育、国際協調学習等で特色ある実践を行っており、学術論文、関連研究会、国際会議等で発表することで、国際的な成果の普及と改善に努めている。

参考) "Improving Motivation in Learning AI for Undergraduate Students by Case Study"
Y. Murakami, Y. Sho, T. Inagaki, Journal of Information Processing, Vol.32 (2024) 175-181.
"Media Literacy Learning with Social Media Simulators and the Formation of Learner's Attitudes", A. Hikita, T. Inagaki, M. S. Maekawa, S. Tajima, and E. Nagasawa, IFIP TC3 OCCE2024, Bournemouth, UK, February 2024.